

南アフリカ為替週報

2022年6月16日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (6月9日～6月15日)

USD/ZAR: 15.1675～16.1875
ZAR/JPY: 8.27～8.81 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、予想外の大幅下落。9日こそ、南ア第1四半期経常収支の改善を好感したランド堅調が先行したものの、その後発表された南ア4月鉱業生産、同製造業生産が相次いで大幅に下振れ、ランドは反落。翌10日のランド急落は、同日発表された米5月CPIの大幅上振れ(市場予想前年比+8.3%のところ、発表は同+8.6%)を受けたドル全面高の一環と言えた。ただし、並行して、対円でもランドが明確に水準を切り下げたのは、米連銀大幅利上げ観測の強まりが、新興市場通貨安(過剰流動性=国際的投資資金の先細り)、高金利通貨安(相対的優位の低減)、資源通貨安(景気抑制による資源需要低迷)などを招いた結果と位置付けられた。ランドは上述三条件の全てに該当する、最弱通貨と言えた。13日以降、ドル指数(ICE)が引き続き堅調気味の推移を維持したのとは裏腹に、ランドが、対ドル、対円などで、底打ちから、むしろ堅調気味の推移を見せたのは、13日の南ア準備銀クガニャホ総裁発言(後述)が材料視された結果と考えられた。同総裁は、同銀インフレ誘導目標(現行+3～6%)引き下げの可能性を示唆。仮に、実際に引き下げられることがあれば、同銀の金融政策はより鷹派的(=利上げに積極的)になるはずで、そうした思惑がランドの下支え要因と読まれたようだ。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/9	9:00	経常収支(ZAR)	Q1	+143bn	+94bn	+132bnr
		鉱業生産(前年比)	4月	-14.9%	-3.5%	-7.5%r
		製造業生産(前年比)	4月	-7.8%	-0.6%	-0.6%r
6/8	8:25	企業景況感指数	5月	89.3		93.7
6/15	11:00	小売売上高(前年比)	4月	+3.4%	+1.7%	+1.3%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (6月16日～6月22日)

USD/ZAR: 15.800～16.300
ZAR/JPY: 8.25～8.55

向こう1週間の南ア・ランド相場は、軟調気味の膠着を予想。南ア準備銀物価誘導目標引き下げは、昨年9月にクガニャホ総裁の口から仄めかされていた。当時、同総裁は、中心値(現行+4.5%)を+3～4%に引き下げた上で、許容幅(現行±1.5%)を±1%に狭める案を提唱。今般も、同総裁の念頭には、おそらく同じような構想があるのではないかと見做される可能性すら除外できないものの、実際に検察当局の捜査が始まってしまうと、可能性は低いものの、大統領自らが導入した「(疑わしきは)身を引くルール」が適用され、最悪の場合、年末の与党党首(=大統領)選に立候補することすらできなくなるリスクもなくなる。一方で、現時点でランド続落を見込まないのは、7日に発表された第1四半期GDPを始め、同経常収支、4月小売売上高などの南ア経済指標に、南ア経済の底堅さが垣間見られるから。経常収支上振れには、良好な交易条件(=ランド安+資源価格高止まり)に支えられた貿易収支高止まり(黒字基調継続)という構造的要因があり、早晩、悪化する性質のものとは思えない。経常収支上振れは、当然、GDP上振れ(純輸出上振れ)や政府歳入(税収)上振れに直結し、南ア経済全般の押し上げ要因と読める。22日発表予定の南ア5月CPIは、前月比+0.2%でも、前年比+6.0%に達する計算になる。例年、5月CPIは減速する傾向があるものの、年初来の推移(注3)に鑑みて、南ア準備銀誘導目標の上限を超える可能性は高い。ただし、ある程度の上振れは既に織り込み済みと思われる。

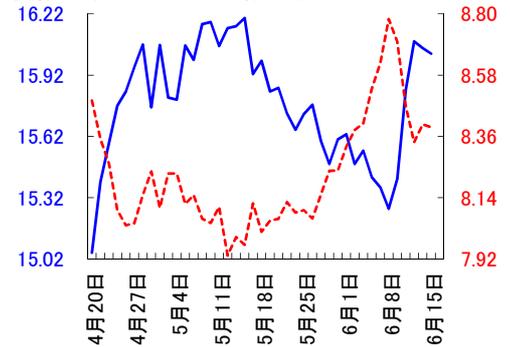
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/22	8:00	CPI(前年比)	5月			+5.9%

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

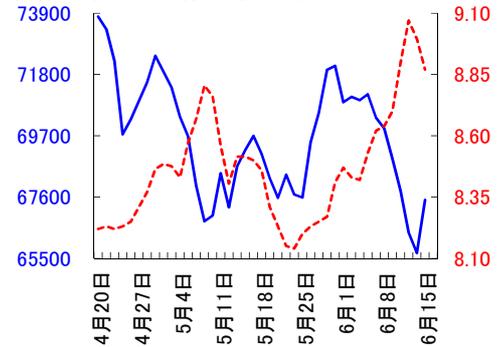
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		4.75%
長期金利(10年スワップ)	6月15日	8.870%
株価指数(JSE全株)	6月15日	67502.09
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	4月	+5.9%
小売売上高(前年比)	4月	+3.4%
製造業生産(前年比)	4月	-7.8%
鉱業生産(前年比)	4月	-14.9%
貿易収支(ZAR)	4月	+15.5bn
金価格(ロンドン17:00)	6月15日	1821.47

(注1) 近年、同様の議論はロシア中銀でもなされたが(昨年7～8月)、進展がないままウクライナを巡る緊張が高まり、その後立ち消えとなっている

(注2) 与党アフリカ民族会議(ANC)内でラマポーザ大統領派=改革推進派と対立関係にある革新的経済移行(RET)派=ズマ元大統領派

(注3) 前月比の数字は、今年1月～4月に、+0.2%、+0.6%、+1.0%、+0.6%と推移してきている